

## IoT サービス仕様書

IoT サービスは、IoT-EX 株式会社の提供する「IoT 相互接続サービス」と「Web サービス」で構成され、接続した端末から収集したデータを蓄積、分析、管理可能なサービスです。また、利用者の自社サービスとの連携だけでなく、他社サービスとも簡単に連携することができます。

### 1. IoT 相互接続サービス

IoT 相互接続サービスは、IoT-EX 株式会社の提供するサービスで、電気通信役務として提供されます。そのため、このサービス内ではデータの蓄積は行いません。このサービスの主な機能は、接続機能、連携機能です。

接続機能は、接続させるシステムに対応する部品（ドライバ）が事前に用意されている場合には、開発なしで容易に接続することができます。事前に用意されていない場合でも、接続させるシステムに対応する部品（ドライバ）を短期間で開発できるような設計になっています。

連携機能は、フォーマット変換機能、ルーティング機能、ワークフロー（プロセス制御）機能で構成されています。

フォーマット変換機能は、接続させるシステムに対応する部品（ドライバ）からデータを受け取り、その形式を変換する役割を担います。接続するシステムごとにデータ形式やプロトコルが異なるため、変換エンジン（パーサー）によりフォーマットを変換します。多くの変換に短時間で対応できるように設計されていますが、対応していない場合には変換部品（設定ファイル）の開発が必要になります。また、変換エンジン（パーサー）の性能が処理速度に影響するので、多くのデータを変換する場合には追加コストが発生します。

ルーティング機能は、フォーマット変換されたデータを複数の連携先に振り分ける機能で、振分先を簡単に設定できるように設計されています。振分先へのルーティング回数が増えると追加コストが発生します。また、簡易接続機能として、接続機能の一部（データチェック機能）だけしか利用せず、圧縮された生データをそのまま特定の振分先にルーティングすることもできます。

ワークフロー（プロセス制御）機能は、接続・フォーマット変換・ルーティング機能を統合して一つのシステムとして実行するための機能です。「A システムから B システムへ連携」というシンプルなものから、「A システムから B システムに連携し、得られたデータと C システムのデータを D システムに連携する」というような多層的なデータの連携もワークフロー機能により自動化することができます。

## 2. Web アプリサービス

Web アプリサービスは、相互接続サービスの利用を前提としたサービスで、接続した端末から収集したデータを蓄積、分析、管理するための機能を提供します。Web アプリサービスはデバイスごとの名称などの基本項目および、デバイスごとに位置情報やセンサー値などの時系列情報の管理機能および、表示 UI 等の機能を SaaS 形式で提供します。

Web アプリサービスを利用するにあたり、マスターアカウントの払い出しが必要となります。マスターアカウントの ID には、メールアドレスを利用します。登録できるメールアドレスは、コーポレートドメインで、アカウントはエイリアスなどのグループアカウントのみとなります。マスターアカウントのメールアドレスは、パスワードの再発行通知や、メンテナンス情報の通知として利用されます。

マスターアカウントのメールアドレスは、個人のメールアドレスや、個人名が含まれるアカウントのメールアドレスは利用できません。個人アドレスの場合、異動や退職に伴う利用できなくなる可能性があるためです。エイリアス/グループアカウントにすることで、クライアント側で実際の通知先を管理できます。（例：[geo-inventory-team@xxxxxx.co.jp](mailto:geo-inventory-team@xxxxxx.co.jp)）

端末管理機能には、ダッシュボード、デバイス一覧、現在位置、ポリシー、ジオフェンス、タグ一覧、ユーザー一覧等があります。

ダッシュボードでは、任意のタグをグルーピングすることにより、該当タグが設定されているデバイス数を確認できます。デバイス一覧では、デバイス一覧が表示されます。

管理者は、利用者に必要な情報を、必要な時に、必要な分だけ見せることができます。管理対象を明示的に示すために利用されるものをタグと呼びます。これにより、タグ付けした端末だけを特定の利用者に参照させることができます。管理者は、管理対象のユーザを無償で幾つでも自由に追加又は削除することができます。

管理者は、位置情報表示で利用するアイコンの色や画像も自由に設定することができます。

す。ジオフェンスでは、任意のエリアを設定し、そのエリアに「入った」「外に出た」を検知し、ポリシーで設定した任意のタグを 該当デバイスに自動で設定させることができます。ポリシーでは、ジオフェンスに「入った」「外に出た」際の、任意のタグを該当デバイスに自動で設定(追加・削除)させることができます。デバイスまたはユーザの編集時に追加されたタグの全一覧が表示されます。

(注) 具体的な利用方法については、Geo-Inventory マニュアルをご覧ください。

### 3. 料金についての考え方

料金は、利用申込みを受領し、サービスの利用を開始した後に、利用契約に基づき IoT サービス価格表の金額を請求するものとします。

利用者は、利用契約に基づき、初期費用とサービス利用料を支払うものとします。初期費用は、IoT サービスの利用を開始するために必要な環境構築費用で、サービスと端末の登録に必要な費用です。

サービス登録料は、サービスの利用環境を構築するもので、利用者毎に最低 1 サービス登録されるものとします。利用者は、サービス利用環境の一部を自社が指定する内容で登録及び設定する場合には、指定する内容に該当する費用を請求するものとします。端末登録料は、接続したい端末を利用者のサービス利用環境と Web サービスに登録するものです。これらは、サービス及び端末の登録後、利用契約に基づき IoT サービス価格表(別表 1)の金額を請求するものとします。

利用者は、利用契約に基づき、その契約期間中にサービスや端末を追加、又は削除を請求することができます。サービスや端末を実際に追加又は削除した場合は、IoT サービス価格表(別表 2)に定めるサービスや端末の追加又は削除費用を請求するものとします。

サービス利用料(別表 3)は、顧客毎に登録・追加され利用可能になった IoT 相互接続サービスと Web アプリサービスの月額利用料で、相互接続利用料と Web アプリ利用料で構成されます。サービスや端末の追加後は、利用契約期間中追加したサービスと端末のサービス利用料を請求するものとします。また、利用契約期間中に削除したサービスや端末については、サービスの利用料は請求されないものとします。

### 4. 実験検証環境提供プログラム

利用者が、利用契約時に PoC (Proof of Concept の略称で、事業構想における仮説の証明や、システムの実現性などの、投資判断材料を集めるための実証実験) 等を目的とした実証実験プログラムを申し込んだ場合に限り、初期費用及び Web サービス利用料の支払いを免除し、相互接続サービス利用料のみを支払うものとします。

実験検証環境プログラムの利用期間は、4 か月を上限とします。このプログラム終了後は当社の責任においてデータを削除するため、削除費用は請求しません。ただし、データの移行を希望する時は、利用契約開始時、又は利用契約中でまだデータ削除が完了していない場合に限り、(別表 1、別表 2) にあるデータ移行費用を支払うことで実験検証環境から商用環境にデータを移行することができます。

## 5. 保守窓口

本サービスに不明な点があった場合、下記までお問合せください。

電話番号：03-3435-3061

メールアドレス：mb\_orix\_eltres@orix.jp

受付時間：平日 9：00-17:00 (年末年始、祝日、当社が別途定める休日を除く)

通常の保守に加えて、IoT-EX 株式会社の有償サポートを申し込むことができます。サポートサービスのレベルに応じて、IoT サービス価格表 (別表 4) の金額を請求するものとします。

## 6. 情報提供等

本サービスに係るあらゆる情報提供は、Web アプリサービスのマスターアカウントであるメールアドレスに対して行います。パスワードの再発行通知、メンテナンス情報や新機能の通知があった場合には、事前に通知するものとします。ただし、セキュリティや個人情報の問題で緊急を要する場合にはこの限りではありません。

以 上